

トビタテ選考体験記（15期・ダイバーシティコース）

学部・研究科：国際協力研究科

学年：博士課程前期課程2年（2023年度）

【書類審査対策】

トビタテに応募するにあたり、募集要項と説明会資料をよく読み、事前ワークシートを活用して書類選考の応募書類に記入する内容を考えました。特に、15期からはトビタテ第二ステージになったということもあり、第一ステージと募集コースが異なったため、募集要項・説明会資料や報道資料を参考に、各コースでどのような人物が求められているのかを理解するよう努めました。また、トビタテホームページの留学大図鑑や、過去のトビタテ合格者のブログを参考にしました。特に、エヴァンジェリスト活動・アンバサダー活動については、どのような活動をすればよいか悩みましたが、トビタテの公式 note や過去のトビタテ合格者のブログが参考になりました。

これは、採用決定後の事前研修で初めて知ったことだったのですが、「必ずこのコースに応募しないとイケない」という明確な決まりはなく、応募者が一番自分の留学計画をアピールできると思うコースを選ぶとよいとのことでした。特に、イノベーターコースについては、他のコース（STEM・ダイバーシティ）では企業の人事の方が個人面接の面接官を担当されることが多い一方で、起業家の方々が面接官を担当されるという特徴があるそうです。起業家の方々に自分の留学計画をアピールしたら評価してもらえそうだと思うのであれば、イノベーターコースを選ぶというのも一つの戦略であると知りました。倍率もコースごとにかなり異なると思いますし、これらの複合的な視点から戦略的にコースを選ぶことが大切なのだと思います。

取り組んで良かったこととして、私はトビタテに応募する1ヶ月ほど前に、別団体の留学奨学金に応募していました。そのため、留学計画や実践活動についてはある程度文章にできている状態だったのが書類審査の応募書類作成に役立ったと思います。

【面接審査対策】

面接対策として、初めに過去のトビタテ合格者のブログを参考に面接審査の詳細について情報を集めました。グループ面接と個人面接があり、それぞれに異なる対策が必要であることも、そこで知りました。書類審査結果の通知の際に、神戸大学国際交流課のご担当者からグローバル教育センター海外学生派遣部門での面接対策指導とキャリアセンターでの面接対策相談の案内をいただき、両方申し込みました。

1. グローバル教育センター海外学生派遣部門での面接対策指導について
グループ面接の対策として、4分間の留学計画のプレゼンテーション・グループワークを実際に行い、最後に全体と個別にフィードバックをいただけたことが有り難かったです。グループ面接の流れを理解できたので面接審査当日に焦らずに済んだと思います。また、プレゼンテーションの長さ・視線・声量・身振り手振り・スケッチブックなどの小道具の使用・面接審査での服装（自分をアピールできる服装）についても審査する側からの視点でアドバイスをいただけたので、面接審査本番はその点を意識して臨みました。
2. キャリアセンターでの面接対策相談について
個人面接の対策として、4分間のプレゼンを担当者の方に聞いていただき、フィードバックをいただきました。効果的なプレゼンテーションの構成についてアドバイスをいただき、留学を日本にどう還元していくのかを一緒に考えてくださったことは、面接審査当日も役立ちました。プレゼンテーションスライドを作成することを勧めてくださったので、当日はスライドを印刷し、スケッチブックに貼って持っていきました。

【面接審査当日について】

面接審査は集合時間に余裕を持って到着することをお勧めします。会場の入口を見つけることが難しいことと、集合時間になると同時に案内が開始され、全員で一斉に会場に移動するためです。準備時間に他の候補者の方々を見ると、スケッチブックを持ってきている人が大半でした。

1. 個人面接について

候補者は一斉に個人面接の会場に案内され、自分の番号が書かれたブースに向かいます。私の面接官は企業の人事の方（およそ60代）とトビタテ生出身の方でした。初めにスケッチブックを使い、4分程度で留学計画についてプレゼンテーションした後、面接官から質問を受けました。終始和やかな雰囲気、留学計画についてプレゼンテーションでは明らかではなかった点について深めるような質問をしてくださったので、研究計画をより明確に伝えられる時間になりました。面接後に候補者同士で感想を話した際に分かったのは、面接官によって面接の流れ・質問内容・雰囲気は全く異なるようでした。

2. グループ面接について

各テーブル6名で構成され、面接官の方（4、50代）が1名配置されていました。4分間で自分の研究計画についてプレゼンした後、他の候補者と面接官からの質疑応答に答えるという形式でした。私のグループでは、全員がスケッチブックを見せてプレゼンテーションしました。その後、グループワークに移り、グループで話し合った内容を代表者が面接官に発表しました。発表者・書記・タイムキーパーを話し合って決め、私は書記を担当しました。「留学をよりよくするために必要なこと」という議題で、1人ずつ意見を言い合い、話し合いを通して意見をまとめた後、代表者の発表練習・候補者からのフィードバックを経て、代表者が面接官に対して発表を行いました。

【トビタテへの応募を検討している方へ】

トビタテに合格している人の共通点として、プレゼンテーションが上手な人が多いこと、留学に対して熱いパッションを持ち、それが相手に伝わるように発表できている人が多いことに選考から事前研修を通して気がつきました。つまり、プレゼンテーションを通して相手の関心を惹きつけ、留学を通して何を成し遂げたいのかを聞き手に伝わるように入念に準備してきた人が合格しているように思います。神戸大学では十分な対策の機会を用意していただいていますし、友人・家族など周りの人に留学計画を聞いてもらい、フィードバックをもらうことも効果的なのではないかと思えます。

15期から大学生等コースの募集人数が大幅に減少したため、大学生等コースではトビタテ生一人ひとりが留学先でより一層積極的にアクションを起こし、トビタテのコミュニティを世界に広げていくことが期待されているとのことです。